

令和 4 年 第 3 回定例会
文教警察委員会 説明資料

1	新型コロナウイルス感染症について	1
2	令和 4 年度全国学力・学習状況調査の結果概要について	2
3	県立高等学校等における校長公募選考について	3
4	教職員の懲戒処分について	4
5	和解について	5
6	教育施設電気料金等高騰対策関連事業について	6
7	第 46 回全国高等学校総合文化祭東京大会の結果について	7
8	令和 4 年度全国中学校体育大会及び全国高等学校総合体育大会等 の結果について	8
9	学校給食等物価高騰対策事業費について	11
10	令和 4 年度世界へ羽ばたくトップアスリート育成事業について	12
11	部活動地域移行に向けた進捗について	13

令和 4 年 9 月 1 6 日
教 育 庁

1 新型コロナウイルス感染症について

県教育委員会

1 年代別の感染状況（令和4年6月22日～9月13日）



※ 厚生労働省及び県の発表資料を基に県教育委員会で作成。

2 現在の学校での対応

基本的な感染症対策を徹底の上、通常どおり活動

<参考>学校における主な感染症対策

- 手洗いや換気、マスク着用といった基本的な感染症対策の徹底
- 3つの密（換気の悪い密閉空間、多くの人が密集、近距離での会話や発声）の回避
- 学校の施設・設備や教職員・児童生徒が使用する器具・用具等の点検

※ 感染への不安等により登校しない場合には、欠席扱いとしない

2 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果概要について

学校教育部 義務教育課

1 調査概要

(1) 調査実施日 令和4年4月19日(火)〈悉皆調査〉

(2) 調査を実施した学校・児童生徒数

(学校数、児童生徒数には、特別支援学校を含む)

		小学校調査 (6年)		中学校調査 (3年)	
		学校数	児童数	学校数	生徒数
全国	公立学校	18,671校	965,761人*	9,348校	892,585人*
茨城県	公立学校	458校	21,798人*	229校	21,556人*

* 児童生徒数は教科・分野ごとに異なるが、最大数を記している。

① 小学校 ・教科に関する調査：国語(14問)、算数(16問)、理科(17問)
・児童質問紙

② 中学校 ・教科に関する調査：国語(14問)、数学(14問)、理科(21問)
・生徒質問紙

※ 解答方式：選択式(マークシート)、短答式、記述式のいずれかによる。

2 結果一覧(公立) (%は平均正答率)

区分	小学校調査			中学校調査		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
茨城県	65%	62%	64%	70%	50%	50%
全国	65.6%	63.2%	63.3%	69.0%	51.4%	49.3%
順位	23位	24位	10位	5位	28位	10位

※ 都道府県別の教科の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数値で国から提供されている。

【参考】前回調査(令和3年度)の結果 (%は平均正答率)

★理科は平成30年度の結果

区分	小学校調査 (6年)			中学校調査 (3年)		
	国語	算数	理科★	国語	数学	理科★
茨城県	65%	70%	63%	64%	56%	68%
全国	64.7%	70.2%	60.3%	64.6%	57.2%	66.1%
順位	16位	13位	5位	30位	25位	9位

※ 都道府県別の教科の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数値で国から提供されている。

3 課題への対応

- 課題改善策について、市町村教育委員会指導主事が参加する学力向上推進協議会において協議(5月)
- 県独自の報告書を作成し、全校に配付(7月)
 - ※ 学校訪問での指導・助言や校内研修において活用
- 指導上の課題改善のポイントを焦点化した「授業力ブラッシュアップ動画」を作成
 - ※ 教員の指導力向上を図るために、教育情報ネットワーク上での配信、各種研修会等で活用

3 県立高等学校等における校長公募選考について

学校教育部 高校教育課

1 目的

- ・ 本県においては、「第2次 茨城県総合計画～『新しい茨城』への挑戦」に基づき、時代の変化に対応し、自ら考え、自ら行動し、解決できるような「人財」の育成に向けて、様々な施策を展開
- ・ 県立高等学校改革プランでは、新たな価値を創造する「起業家精神」を育成するため、これまでに県内各地に中高一貫校を設置し、探究活動、国際教育、科学教育等に重点を置いた教育を6年間で計画的・継続的に展開
- ・ また、全国初となる専科高校を令和5年度から新たに2校開校して、AI・IoTなど科学技術の進展やIT人財の不足という社会の変化に対応
- ・ 中高一貫教育校及び特色ある専科高校の校長を公募により選考することにより、これまでのキャリアで培われたマネジメントのノウハウを十分に発揮し、過去の事例にとらわれない新たな発想に基づく、新しい時代の学校のマネジメントと人財の育成に期待

2 内容

- (1) 配置校 10校
- ・ 併設型中高一貫教育校 5校(日立一、太田一、鹿島、下館一、下妻一)
 - ・ 中等教育学校 3校(勝田、並木、古河)
 - ・ R5開校の2校(IT未来、つくばサイエンス)
- ※ 配置校は、選考結果を踏まえ決定
※ 公募校長の任期について
任期4年。校長としての成果と本人の意思確認により、県教育委員会
が継続必要と判断した場合は、さらに4年の任期として採用できるものとする。
- (2) 採用年月日 令和5年4月1日
- (3) 応募資格
- ① 年齢制限なし
 - ② 管理職等の経験を有する者
- ※エン・ジャパン(株)のサイトより応募。
- (4) 募集期間 令和4年8月29日(月)～9月28日(水)
- (5) その他 本県職員以外の者(民間人等)は、特定任期付職員として採用
1年目は副校長として勤務し、2年目から校長に登用

3 応募状況

応募者総数	958名(9月13日現在)
-------	---------------

4 今後のスケジュール(予定)

第1次選考	書類選考	随時実施
第2次選考	録画面接	1次選考合格者に対して随時実施
第3次選考	面接試験(1回目)	令和4年10月15日(土) 16日(日)
第4次選考	面接試験(2回目)	11月上旬
合格発表		11月中旬

4 教職員の懲戒処分について

学校教育部 高校教育課

■ 酒気帯び運転

項 目	内 容
対象教員	県立下妻特別支援学校 副技師 松崎 一志 62歳 男
事件概要	<p>令和4年6月14日(火)午後6時頃、自宅付近のコンビニエンスストアで500ミリリットルのハイボール2本を購入し、同店駐車場に駐車中の自家用車内で1時間程度飲酒した。</p> <p>その後、自家用車を運転して帰宅途中、運転操作を誤り、公道の縁石に乗り上げ、民家の塀に衝突・破損させた。</p> <p>通報により現場に駆けつけた下妻警察署による呼気検査の結果、基準値を超えたアルコールが確認され、午後8時頃、酒気帯び運転で検挙された。</p>
処分内容	免職
処分年月日	令和4年8月25日
その他	校長に対しては、年度当初からコンプライアンスに関する指導を行っていること、本事案は管理外事故であることなどを総合的に勘案し、訓告とした。

5 和解について

学校教育部 特別支援教育課

議案の名称	和解について
1 現況・課題	<p>平成 24 年 9 月、生徒が休み時間の移動中、人工呼吸器の管が外れた際に、学校の教職員の初動対応に不適切な面があったため、低酸素脳症となり生徒に後遺障害が残った。原告らは、平成 30 年 4 月、県を相手に損害賠償を求める訴えを水戸地方裁判所に提起した。</p>
2 必要性・ねらい	<p>原告被告双方とも和解による解決を要望していることから、令和 4 年 6 月に水戸地方裁判所から和解案が提示され、弁護士との検討の結果、和解金額が妥当な額であると考えられること、また、事故後約 10 年が経過し、早期に解決することが適当であることから、和解しようとするもの。</p>
3 内 容	<p>(1) 和解案の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 和解金 50,000,000 円 ② 県は医療的ケアの支援体制の充実に向けて一層努力する。 ③ 原告は、その余の請求を放棄する。 <p>※ 上記和解金のうち 48,000,000 円は、東京海上日動火災保険株式会社から支払われる。 なお、県が負担する 2,000,000 円については、予備費を用いて支出する。</p> <p>(2) 今後の予定</p> <p>第 3 回定例会の議決後に和解調書を締結し、和解となる予定である。</p>
4 参考事項	<p>○藤代紫水高校バスケットボール事故 (H25. 10. 31 和解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業中、生徒が後遺障害を負ったもの ・和解金：2 億 7 千 9 百万円余 (うち県費負担 179, 107, 363 円) <p>○神栖高校水泳事故 (H20. 10. 7 和解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛び込みで頸髄を損傷し、四肢麻痺となったもの ・和解金：1 億 7, 100 万円余 (うち県費負担 7, 100 万円余)

6 教育施設電気料金等高騰対応関連事業について

総務企画部 財務課

<p>事業名又は議案の 名 称</p>	<p>教育施設電気料金等高騰対応関連事業</p>																																																																										
<p>1 予 算 額</p>	<p>511,357千円</p>																																																																										
<p>2 現況・課題</p>	<p>原油価格の高騰等により、電気料金等が値上がりしている状況であり、教育施設においては、年間を通しての予算の不足が見込まれる状況である。</p>																																																																										
<p>3 必要性・ねらい</p>	<p>教育施設の光熱水費等(電気料金等)の予算の不足額について、補正予算で対応し、適切な施設の維持・管理に努めていく必要がある。</p>																																																																										
<p>4 事業の内容 (事業フロー、 年次別・全体計 画等)</p>	<p>【各教育施設における補正予算額(光熱水費等)】 (単位:千円)</p> <table border="1" data-bbox="491 1032 1430 1816"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象施設</th> <th rowspan="2">当 初 予算額 (A)</th> <th colspan="3">今回補正額 (B)</th> <th rowspan="2">補正後 予算額 (A+B)</th> </tr> <tr> <th>電気</th> <th>燃料</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高等学校 96 校 (中学・中等含)</td> <td>1,166,555</td> <td>266,027</td> <td>—</td> <td>266,027</td> <td>1,432,582</td> </tr> <tr> <td>特別支援学校 23 校</td> <td>171,010</td> <td>112,571</td> <td>—</td> <td>112,571</td> <td>283,581</td> </tr> <tr> <td>県立図書館</td> <td>23,405</td> <td>19,980</td> <td>5,787</td> <td>25,767</td> <td>49,172</td> </tr> <tr> <td>県近代美術館</td> <td>49,309</td> <td>19,137</td> <td>—</td> <td>19,137</td> <td>68,446</td> </tr> <tr> <td>ミュージアムパーク 茨城県自然博物館</td> <td>55,961</td> <td>36,753</td> <td>—</td> <td>36,753</td> <td>92,714</td> </tr> <tr> <td>県陶芸美術館</td> <td>25,705</td> <td>12,149</td> <td>—</td> <td>12,149</td> <td>37,854</td> </tr> <tr> <td>県立歴史館(※)</td> <td>391,042</td> <td>3,879</td> <td>—</td> <td>3,879</td> <td>394,921</td> </tr> <tr> <td>笠松運動公園(※)</td> <td>390,698</td> <td>21,522</td> <td>9,684</td> <td>31,206</td> <td>421,904</td> </tr> <tr> <td>堀原運動公園(※)</td> <td>119,221</td> <td>3,316</td> <td>552</td> <td>3,868</td> <td>123,089</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,392,906</td> <td>495,334</td> <td>16,023</td> <td>511,357</td> <td>2,904,263</td> </tr> </tbody> </table> <p>※は、指定管理施設につき、委託料を記載</p>						対象施設	当 初 予算額 (A)	今回補正額 (B)			補正後 予算額 (A+B)	電気	燃料	計	高等学校 96 校 (中学・中等含)	1,166,555	266,027	—	266,027	1,432,582	特別支援学校 23 校	171,010	112,571	—	112,571	283,581	県立図書館	23,405	19,980	5,787	25,767	49,172	県近代美術館	49,309	19,137	—	19,137	68,446	ミュージアムパーク 茨城県自然博物館	55,961	36,753	—	36,753	92,714	県陶芸美術館	25,705	12,149	—	12,149	37,854	県立歴史館(※)	391,042	3,879	—	3,879	394,921	笠松運動公園(※)	390,698	21,522	9,684	31,206	421,904	堀原運動公園(※)	119,221	3,316	552	3,868	123,089	合 計	2,392,906	495,334	16,023	511,357	2,904,263
対象施設	当 初 予算額 (A)	今回補正額 (B)			補正後 予算額 (A+B)																																																																						
		電気	燃料	計																																																																							
高等学校 96 校 (中学・中等含)	1,166,555	266,027	—	266,027	1,432,582																																																																						
特別支援学校 23 校	171,010	112,571	—	112,571	283,581																																																																						
県立図書館	23,405	19,980	5,787	25,767	49,172																																																																						
県近代美術館	49,309	19,137	—	19,137	68,446																																																																						
ミュージアムパーク 茨城県自然博物館	55,961	36,753	—	36,753	92,714																																																																						
県陶芸美術館	25,705	12,149	—	12,149	37,854																																																																						
県立歴史館(※)	391,042	3,879	—	3,879	394,921																																																																						
笠松運動公園(※)	390,698	21,522	9,684	31,206	421,904																																																																						
堀原運動公園(※)	119,221	3,316	552	3,868	123,089																																																																						
合 計	2,392,906	495,334	16,023	511,357	2,904,263																																																																						
<p>5 参考事項 (過去の実績、 他県の状況、 関連データ等)</p>																																																																											

7 第46回全国高等学校総合文化祭東京大会の結果について

総務企画部 文化課

- 1 開催期間 令和4年7月31日(日)～8月4日(木)〔5日間〕
- 2 開催部門 総合開会式、パレード、規定19部門、協賛4部門
- 3 本県参加数 総合開会式及び規定16部門、協賛2部門延べ70校参加、238人派遣
- 4 受賞結果

部門		成績	学校名等
演劇		優良賞(全国高等学校演劇協議会会長賞)、内木文英賞	県立日立第一高等学校
書道		特別賞	水城高等学校
新聞		奨励賞	つくば秀英高等学校
弁論		優良賞	県立銚田第二高等学校
放送	朗読部門	Eブロック第4位、第6位	県立水戸第一高等学校
	ビデオメッセージ部門	Gブロック第6位	県立緑岡高等学校
自然科学	物理部門	優秀賞	県立日立第一高等学校
	化学部門	奨励賞	県立並木中等教育学校

5 部門別参加校 ※は競技・コンクール実施部門

○開会行事

総合開会式	緑岡
-------	----

○規定部門

種目	代表校	種目	代表校
演劇	日立第一	合唱	水戸第二、水戸第三、土浦第一
吹奏楽	水戸桜ノ牧	器楽・管弦楽	土浦第一、勝田、並木中等、下妻第一
日本音楽	佐和	美術・工芸	日立北、日立第一、水戸第一、土浦工業、取手松陽、銚田第一、古河第三、水戸第三
書道	水戸葵陵、竜ヶ崎第一、水海道第二、太田第一、水城、水戸第三、取手聖徳女子、茗溪、牛久栄進	写真	水海道第一、古河中等、水城、霞ヶ浦、水戸第二、麻生、土浦工業、下妻第一、鹿島、高萩清松
放送	水戸第二、並木中等、水戸第一、緑岡	囲碁	緑岡、土浦第一、水戸工業、那珂
将棋	土浦日大、下妻第二、水戸葵陵、緑岡、竹園	弁論	水海道第一、銚田第二
小倉百人一首かるた	銚田第一、常総学院、水城、茨城	新聞	つくば秀英、古河中等、岩瀬日大
文芸	水戸第二、日立第一、水戸第三、下妻第二	自然科学	日立第一、並木中等、土浦第三、日立北

○協賛部門

軽音楽	竹園	ボランティア	水戸桜ノ牧
-----	----	--------	-------

※新型コロナウイルス感染症等による不参加校(参加予定部門)

大洗(開会行事:パレード、規定部門:マーチングバンド・バトントワリング)、茎崎(郷土芸能)

8 令和4年度全国中学校体育大会及び全国高等学校総合体育大会等の結果について

学校教育部 保健体育課

1 全国中学校体育大会

(1) 全国中学校体育大会の概要

ア 開催競技 陸上競技 外15競技

イ 開催期間 令和4年8月17日(水)～25日(木)

ウ 開催地 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

(2) 本県代表の状況

ア 主な成績

区分	個人	団体
優勝	2競技のべ3種目	—
入賞(8位以内)	5競技のべ16種目	3競技のべ3種目

イ 入賞者・入賞校一覧

成績	競技名	種目	入賞者・入賞校名		
			氏名	学年	学校名
1位	陸上	男子200m	黒澤 諒介	3	水戸第三中学校
	陸上	女子100mハードル	香取 奈摘	2	三和中学校
	水泳	女子200m平泳ぎ	中澤 心暖	3	古河第三中学校
2位	ソフトテニス	男子団体	—	—	取手第一中学校
3位	水泳	女子100m平泳ぎ	中澤 心暖	3	古河第三中学校
4位	陸上	男子110mハードル	嶋崎 結己	3	竹園東中学校
	体操	男子跳馬	落合 遥生	3	茗溪学園中学校
5位	水泳	女子200mバタフライ	出野 有紗	3	久慈中学校
	水泳	女子200m個人メドレー	村山 萌	3	結城東中学校
	剣道	男子団体	—	—	水海道中学校
	剣道	女子個人	熊木 優香	3	下館中学校
	柔道	男子81kg級	星 拓西	3	藤代中学校
6位	水泳	男子200mバタフライ	倉塚 遼	3	双葉台中学校
	水泳	男子200m背泳ぎ	大関 伶	3	駒王中学校
	水泳	女子団体	—	—	古河第三中学校
7位	水泳	女子400m個人メドレー	村山 萌	3	結城東中学校
8位	水泳	男子200m自由形	川口 真澄	3	笠間中学校
	水泳	男子200m平泳ぎ	真田 賢人	3	美野里中学校
	水泳	男子100mバタフライ	倉塚 遼	3	双葉台中学校

※ベスト4は3位扱い、ベスト8は5位扱い

2 全国高等学校総合体育大会

(1) 「躍動の青い力 四国総体 2022」の概要

- ア 開催競技 陸上競技 外 29 競技
 イ 開催期間 令和4年7月23日(土)～8月23日(火)
 ウ 開催地 徳島県、香川県、愛媛県、高知県、和歌山県
 ※総合開会式は、アスティとくしま(徳島県)で実施

(2) 本県代表の状況

ア 主な成績

区分	個人	団体
優勝	2競技のべ2種目	1競技のべ1種目
入賞(8位以内)	11競技のべ27種目	4競技のべ6種目

イ 入賞者・入賞校一覧

成績	競技名	種目	入賞者・入賞校名						
			氏名	学年	学校名				
1位	体操 ヨット ヨット	男子あん馬 女子420級 男子コンバインド	阿部 檜生	3	勝田工業高等学校 霞ヶ浦高等学校 霞ヶ浦高等学校				
			出口愛海・宮本あかり —	3、2 —					
2位	ヨット ヨット ウエイトリフティング ウエイトリフティング カヌー	男子420級 男子レーザーラジアル級 女子59kg級(トータル) 女子59kg級(クワ&ジャク) カナディアンシングル200m	鈴木海翔・早川大翔	3、2	霞ヶ浦高等学校 霞ヶ浦高等学校 石岡第一高等学校 石岡第一高等学校 那珂湊高等学校				
			重松 陽	1					
			井野 美優	3					
			井野 美優	3					
			白土 龍輝	3					
3位	陸上 相撲 レスリング ヨット ヨット ウエイトリフティング 水泳 水泳	女子走高跳 個人 男子65kg級 男子420級 男子レーザーラジアル級 女子59kg級(スナッチ) 女子高飛込 女子飛板飛込	谷口 愛弥子	2	竹園高等学校 東洋大牛久高等学校 霞ヶ浦高等学校 霞ヶ浦高等学校 霞ヶ浦高等学校 石岡第一高等学校 常総学院高等学校 常総学院高等学校				
			篠崎 颯太	3					
			金子 晴翔	3					
			重松 駿・岩永燎汰	3、2					
			酒巻 佑成	1					
			井野 美優	3					
			坂田 丹寧	1					
			坂田 丹寧	1					
			4位	陸上 ボート ヨット ウエイトリフティング ウエイトリフティング ウエイトリフティング 水泳		男子やり投 男子シングルスカル 女子コンバインド 男子+102kg級(トータル) 男子+102kg級(スナッチ) 男子+102kg級(クワ&ジャク) 男子高飛込	島田 湧大	3	波崎柳川高等学校 潮来高等学校 土浦第一高等学校 高萩清松高等学校 高萩清松高等学校 高萩清松高等学校 土浦第一高等学校
							須賀 優輝	2	
—	—								
清水 琉聖	3								
清水 琉聖	3								
清水 琉聖	3								
柴 大翔	2								
5位	ヨット 柔道 柔道 剣道 剣道 相撲 レスリング サッカー	女子コンバインド 男子団体 男子66kg級 男子個人 女子団体 体重別80kg級 男子71kg級 女子	—	—	霞ヶ浦高等学校 つくば秀英高等学校 水戸啓明高等学校 水戸葵陵高等学校 守谷高等学校 東洋大牛久高等学校 霞ヶ浦高等学校 鹿島学園高等学校				
			—	—					
			清水 福虎	3					
			熊木 隆汰	3					
			—	—					
			小林 一徹	3					
			金子 勇翔	3					
			—	—					
6位	—	—	—	—	—				
			—	—	—				
7位	—	—	—	—	—				
			—	—	—				
8位	陸上 水泳	男子ハンマー投 男子飛板飛込	松田 太一	3	霞ヶ浦高等学校 土浦第一高等学校				
			柴 大翔	2					

※ベスト4は3位扱い、ベスト8は5位扱い

3 その他の全国大会

(1) 中学校

ア 全国中学生レスリング選手権大会

(令和4年6月11日～12日／アダストリアみとアリーナ)

成績	種 目	入賞者・入賞校名		
		氏 名	学 年	学 校 名
3位	男子 85kg 級	矢口 瞳真	3	土浦第六中学校
3位	女子 73kg 級	内山 陽誇	3	下稲吉中学校

イ 第19回全国中学生弓道大会

(令和4年8月8日～9日／愛知県ドルフィンズアリーナ愛知県体育館)

成績	種 目	入賞者・入賞校名		
		氏 名	学 年	学 校 名
1位	女子団体	—	—	東海中学校
5位	男子団体	—	—	東海南中学校

(2) 高等学校

ア 第56回全日本高等学校馬術競技大会

(令和4年7月19日～21日／静岡県御殿場市馬術・スポーツセンター)

成績	種 目	入賞者・入賞校名		
		氏 名	学 年	学 校 名
3位	団 体	—	—	真壁高等学校

イ 第33回全日本高等学校馬術選手権大会

(令和4年8月9日～10日／北海道苫小牧市ノーザンホースパーク)

成績	種 目	入賞者・入賞校名		
		氏 名	学 年	学 校 名
2位	〔基本障害馬場馬術〕 〔障害飛越〕 競技	糸川 賢心	3	江戸崎総合高等学校
6位	〔基本障害馬場馬術〕 〔障害飛越〕 競技	吉田 要純	3	真壁高等学校

ウ 2022年度全国高等学校ゴルフ選手権大会

(令和4年8月4日～10日／栃木県宇都宮市サンヒルズカントリークラブ)

成績	種 目	入賞者・入賞校名		
		氏 名	学 年	学 校 名
2位	男子個人	隅内 雅人	3	水戸啓明高等学校
3位	女子団体	—	—	明秀学園日立高等学校
4位	男子団体	—	—	日本ウェルネス高等学校
8位	女子団体	—	—	ルネサンス高等学校

9 学校給食等物価高騰対策事業費について

学校教育部 保健体育課

1 予算額	16,325 千円																						
2 現況・課題	<p>県立学校の給食等における食材価格の高騰により、学校からは、食に関する指導の「生きた教材」となるような献立作成ができないとの声が上がっており、これまで通りの栄養バランスや量を保ちつつ、地場産物を引き続き活用し、また食材費の値上げ分を保護者に転嫁しないよう、物価高騰への対策を講じる必要がある。</p>																						
3 必要性・ねらい	<p>物価高騰の影響により、県立学校で実施されている学校給食等における食材費が高騰していることから、本来保護者が負担することとなる学校給食費（学校給食法第11条第2号に基づく経費）のうち食材費の増額分を県が支援することにより、保護者の負担軽減を図る。</p>																						
4 事業の内容 (事業フロー、 年次別・全体計画等)	<p>○学校給食費 【補助先】 県立学校（中学、中等、特支、夜間定時制）の給食会計 【補助対象経費】 食材費高騰分に相当する経費（1食あたり20円を想定） 【財源】（国10/10）</p> <p>○舎食費 【補助先】 県立学校（特支、水農）の給食会計 【補助対象経費】 食材費高騰分に相当する経費（1食あたり20円を想定） 【財源】（国10/10）</p> <p>※本事業は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用する当該年度限りの事業となる。</p> <p>○学校給食法第11条に定める経費</p> <table border="1" data-bbox="494 1451 1428 1675"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">経費の区分</th> <th>対象</th> <th>負担者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">学校給食に係る経費</td> <td rowspan="2">学校給食費</td> <td colspan="2">食材費（物価高騰分）</td> <td>対象</td> <td rowspan="2">受益者</td> </tr> <tr> <td colspan="2">食材費</td> <td>対象外</td> </tr> <tr> <td colspan="2">施設及び設備並びに運営費</td> <td>対象外</td> <td>学校設置者</td> </tr> </tbody> </table>						経費の区分		対象	負担者	学校給食に係る経費	学校給食費	食材費（物価高騰分）		対象	受益者	食材費		対象外	施設及び設備並びに運営費		対象外	学校設置者
		経費の区分		対象	負担者																		
学校給食に係る経費	学校給食費	食材費（物価高騰分）		対象	受益者																		
		食材費		対象外																			
	施設及び設備並びに運営費		対象外	学校設置者																			
5 参考事項 (過去の実績、 他県の状況、 関連データ等)	<p>○全国における学校給食用食材の高騰への対応状況</p> <table border="1" data-bbox="494 1736 1428 1906"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>都道府県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①6月補正計上</td> <td>東京都、神奈川県、埼玉県等（34都道府県）</td> </tr> <tr> <td>②9月補正計上予定</td> <td>青森県、岩手県、群馬県等（6県）</td> </tr> <tr> <td>③検討中</td> <td>石川県、山梨県、京都府等（6府県）</td> </tr> </tbody> </table> <p>※上記①、②の都道府県はいずれも地方創生臨時交付金を活用（予定）</p>				区分	都道府県	①6月補正計上	東京都、神奈川県、埼玉県等（34都道府県）	②9月補正計上予定	青森県、岩手県、群馬県等（6県）	③検討中	石川県、山梨県、京都府等（6府県）											
区分	都道府県																						
①6月補正計上	東京都、神奈川県、埼玉県等（34都道府県）																						
②9月補正計上予定	青森県、岩手県、群馬県等（6県）																						
③検討中	石川県、山梨県、京都府等（6府県）																						

10 令和4年度世界へ羽ばたくトップアスリート育成事業について

学校教育部 保健体育課

1 趣 旨

ジュニアアスリートの発掘・育成を中心とした競技力の向上を図り、国内外で活躍するトップアスリートを輩出する。

2 ジュニアアスリート発掘・育成事業について

(1) 事業内容

- 県内学校に在籍の小学4年生を対象に体力測定会を実施し、体力の優れた児童を選考する。
- 選考した児童を対象に、6年生までの期間、県内プロチームや大学及び各種団体等と連携し、トレーニング方法や栄養学講座、競技スキルなどの育成プログラムを実施することにより、アスリートを目指すための知識や技術等を習得させる。

(2) 令和3年度の取組状況

- 第1期生(30名)…年10回(競技プログラム、食育プログラム、保護者サポートプログラム等)
- 第2期生(36名)…年4回(競技プログラム、スポーツ医科学プログラムなど)

3 令和4年度ジュニアアスリート発掘・育成事業について

(1) 令和4年度の改善点

- 育成競技を限定
 - ・ゴルフ、スポーツクライミング、バドミントン、サッカー、バスケットボールの5競技
- 競技団体が中心となり、拠点施設において優れた指導者による計画的な育成、強化を図る。

(2) 第3期生の選考：第3期生ジュニアアスリート選考会

①第一次選考会(体力測定)

- ・8月3日(水)、5日(金)、7日(日)、13日(土)の4日間、県内3会場で実施
- ・各競技が指定する測定種目を行い、測定記録をもとに、第一次選考合格者を選出
- ・各競技参加者数253名(男子149名、女子104名)

競技	参加者数
ゴルフ	18名(男子7名、女子11名)
スポーツクライミング	57名(男子20名、女子37名)
バドミントン	14名(男子4名、女子10名)
バスケットボール	62名(男子25名、女子37名)
サッカー	102名(男子93名、女子9名)

②第二次選考(面接)

- ・第一次選考合格者に対し、育成プログラムへの参加意思について最終確認

③第3期生ジュニアアスリート選考結果 38名(男子22名、女子16名)

競技	育成選手数
ゴルフ	8名(男子3名、女子5名)
スポーツクライミング	8名(男子4名、女子4名)
バドミントン	5名(男子2名、女子3名)
バスケットボール	5名(男子3名、女子2名)
サッカー	12名(男子10名、女子2名)

(3) 今後の予定

- 第3期生開講式 9月23日(金・祝) ホテルレイクビュー水戸

11 部活動地域移行に向けた進捗について

学校教育部 保健体育課

1 地域移行の方向性

- (1) 国の提言：休日の部活動から段階的に地域移行
義務教育である中学校から、令和5～7年度を改革集中期間として地域移行を推進
- (2) 本県有識者会議の提言：中学校・高校ともに地域移行に向けた部活動改革を推進
 - ① 生徒がニーズに応じてスポーツ・文化芸術活動を行うことのできる環境
 - ② 教員が学習や生活・進路面で生徒と向き合うなどの本務に専念できる環境
- (3) 地域移行に伴う課題
 - ① 運営主体の整備
 - ・ 受け皿となる団体等の不足
 - ② 指導者の確保
 - ・ 運営主体となる既存団体があった場合でも、中学生向けの指導者が不足
 - ③ 費用負担
 - ・ 活動費（受益者負担）が増額するため、保護者の負担が増加
- (4) 国の自治体への支援の検討事項
 - コーディネーター配置支援等体制整備
 - 運営団体・実施主体の整備充実
 - 指導者配置支援等体制整備等
 - 参加費用負担への支援

2 部活動運営方針改訂（10月）と地域クラブ活動ガイドライン策定（12月）

- (1) 部活動運営方針改訂の概要
 - 部活動は、生徒の自主的・自発的な参加であることの周知徹底
 - 運営方針遵守の徹底により活動過多を抑止し、生徒や教員の心身の健康を維持
 - 学校部活動から地域クラブ活動への円滑な移行に向けた整理

（主な内容）

- ・ 医学的根拠を踏まえた活動時間の上限設定
- ・ 休養日の適切な設定と、生徒の多様な活動参加への理解
- ・ 大会参加数の制限や、教員によらない大会運営整備

【助言者の意見】

- ・ 活動時間の厳守ばかりに目を向けて、生徒の意欲が削がれることのないように気を付けてほしい
- ・ 休養日の設定について、勝ち上がりの大会などでは日程上困難が生じるため、柔軟に対応できるようにしてほしい
- ・ 団体の活動が教員によって成り立っているため、兼職兼業を認めてほしい 等

(2) 地域クラブ活動ガイドライン策定の概要

- 地域移行後も、生徒が安心・安全な活動が継続できるようガイドラインを策定
(主な内容)
 - ・ 運営方針の内容を踏まえ、生徒の活動過多の抑止
 - ・ 地域クラブ運営の在り方
 - ・ 指導者の質の向上
 - ・ 大会運営の在り方

3 県の取組み

(1) 地域移行推進のための業務連携体制の充実（ワーキングチームの設立）

教育庁各課だけでなく、関係部局であるスポーツ推進課や生活文化課及びスポーツ・文化芸術の関係団体との連携。セクションごとに方向性を検討

(2) 計画等の策定

- 部活動運営方針の改訂（10月）
- 推進計画の策定（10月）
- 地域クラブ活動ガイドラインの策定（12月）

(3) 生徒・保護者・県民への周知理解

- 地域移行についてのメリット、在り方について周知
- チラシや動画の作成（1人1台端末を活用し生徒に配信）

(4) 市町村への支援

- 運営主体の整備
 - ・ 地域によって課題に違いがあることから市町村ごとに適したプランを提示
 - ・ スポーツ少年団等の既存団体の活用を働きかけ
- 指導者の発掘、確保
 - ・ 人材バンクの設置
 - ・ 研修や指導者認定制度の導入
 - ・ 部活動指導員の拡充

(5) 高校における地域移行

- 地域クラブで活動した中学生が高校進学後も継続して活動するために体制を整備
- 競技人口の減少している種目は、拠点校（地域）での活動を推進